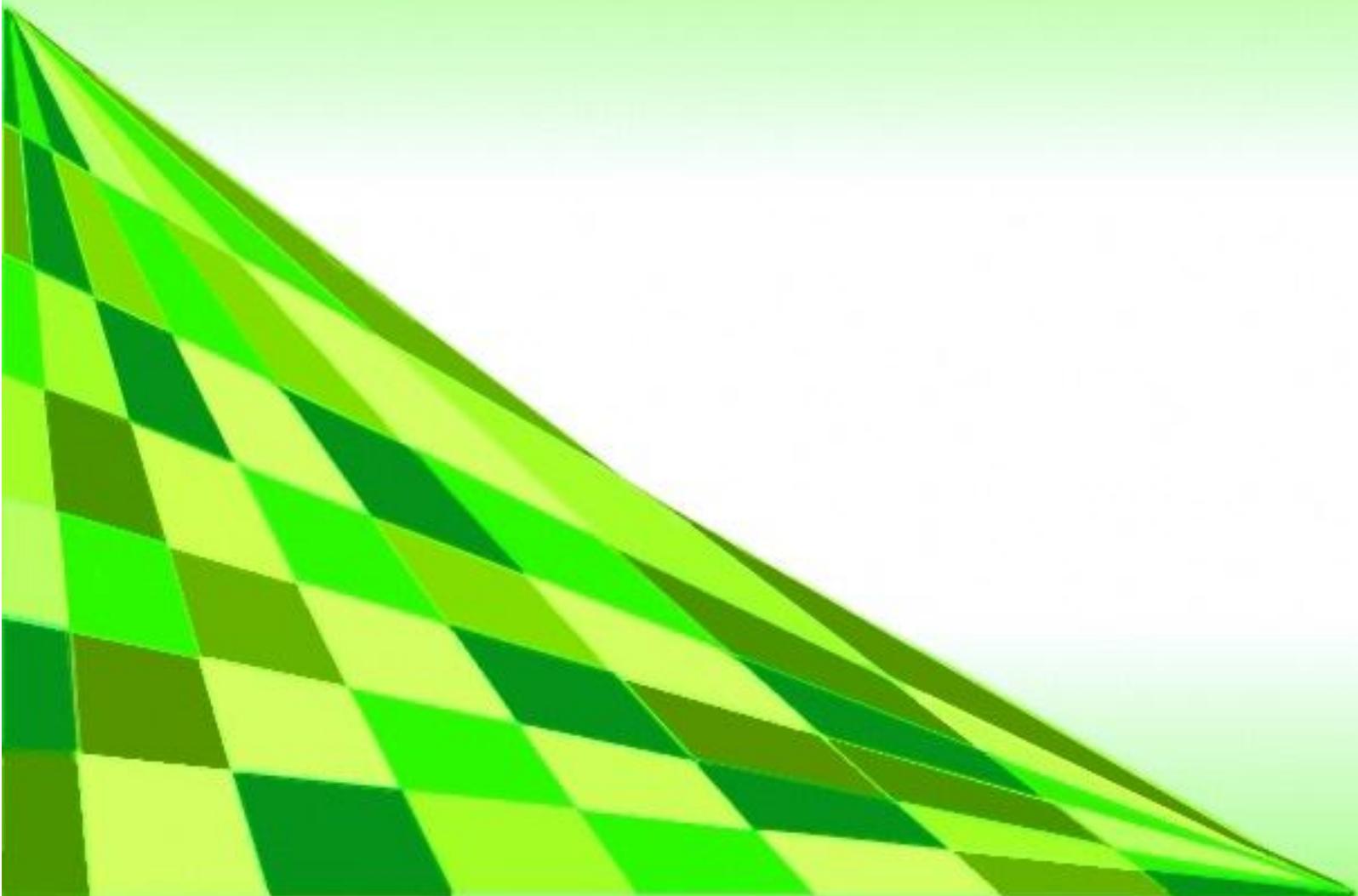


令和8年度

中央地区の教育



秋田県教育庁中央教育事務所

生徒指導

全ての子どもを対象にした課題未然防止教育の充実

本校における*プロアクティブな生徒指導の在り方を見つめ直し、その内容を計画的に実践することが、不登校・いじめ等の諸課題の未然防止や再発防止につながります。課題未然防止教育においては、管理職を含め、複数の教職員で子どもを多面的・総合的に理解し、全校体制によるチーム支援の取組の改善・更新を積み重ねていくことが大切です。

*プロアクティブ：常態的・先行的（生徒指導参考資料 R 5 参照）

1 魅力ある学校づくり

子どもが、登校することを楽しいと感じ、安心して学ぶことができるよう、生徒指導の実践上の視点を意識した魅力ある学校づくりに取り組むことが大切です。

〔実践上のポイント〕

- 「居場所づくり」と「絆づくり」の推進（生徒指導参考資料 H 2 8、H 3 0 参照）
 - ・子どもが互いのよさを認め合える場や機会を意図的に設ける。
 - ・異年齢交流等により、自己有用感を高めることのできる機会を設ける。
- 子どもの成長や発達を支える「発達支持的生徒指導」に係る方策を考え、実践し、点検・見直しを繰り返す P D C A サイクルを構築する。
- 生徒指導の実践上の視点についての理解を深め、授業づくりや学級づくりに反映させる。



<生徒指導の実践上の視点>

・自己存在感の感受 ・共感的な人間関係の育成 ・自己決定の場の提供 ・安全・安心な風土の醸成

（生徒指導参考資料 R 6、R 7 参照）

2 学校を中心とした、関係機関との連携・協働

本校における生徒指導の重点事項を共通理解し、スクールカウンセラー（以下 S C）等の専門家と日常的に連携・協働することができるネットワークを整備することが大切です。

〔実践上のポイント〕

- 生徒指導上の諸課題の未然防止をねらいとした教育プログラムを、年間指導計画に位置付け、S C や広域カウンセラー（以下広域 C）等の専門家の協力を得て実施する。
 - ・ S O S の出し方教育（自殺予防教育）
 - ・いじめ防止教育
 - ・薬物乱用防止教育
 - ・情報モラル教育
 - ・非行防止教育 など
- 生活アンケートや毎日の生活記録などにタブレット端末を活用することで、いち早く子どもの健康や心身の変化に気づき、その結果を基に教職員や S C による教育相談につなげることができるようにする。



◆課題未然防止教育における

S C、広域 C の活用実践例

- ・ S O S の出し方教育における講師
- ・学校保健委員会における保護者への講話
- ・いじめ防止対策委員会への参加及び助言
- ・特別支援学級に在籍する子どもと保護者を対象とした講話
- ・小学校高学年を対象としたアサーショントレーニング
- ・全ての子どもを対象とした S C との面談
- ・学年集会での講話

◆関係機関と連携・協働したネットワーク型支援

生徒指導上の諸課題における早期発見対応は、学校だけで対応せず、関係機関と協力して校外のネットワークを生かしたチーム支援を進めることが大切です。

<連携・協働が考えられる関係機関例>

- ・スクールソーシャルワーカー（S S W）
- ・ S C、広域 C ・適応指導教室 ・医療機関
- ・中央児童相談所 ・民間のフリースクール

H 2 8 ~ R 7
「中央地区の教育」生徒指導参考資料

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/55576>



「個別の配慮」とは、全体の授業に参加するための配慮であり、「ユニバーサルデザインによる指導の工夫」をした上で、必要に応じて実施します。したがって「個別の配慮」の成否は、全体の授業に参加できたかにより判断します。また、「個別の配慮」は合理的配慮を具体化した支援の一つで、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて実施することが大切です。次に示した事例は、中央管内での「個別の配慮」の実践を参考にしています。

特別支援教育支援員との連携

【事例①】

授業者の指示を再確認したり、教科書の見る箇所を指差したりするなどの、特別支援教育支援員の支援により、周囲の子どもと同じ速さで学習活動に取り組んでいました。



活用のポイント

◎特別支援教育支援員を活用する

個別の教育支援計画や個別の指導計画に支援等を記載し、支援員の役割を明確にすることが大切です。

具体的な手立ての共有により、連携が図られ、支援の効果が高まります。

読書補助具の活用

【事例②】

読んでいる箇所を見失いやすい子どもが、リーディングルーラーを活用することで、今読んでいる行が分かり、最後まで集中して文章を読むことができていました。



活用のポイント

◎読む位置を分かりやすくする

読むことが苦手な子どもにとって、注目する部分を分かりやすくすることが大切です。

「一人で読めた」経験の積み重ねが、苦手意識の克服につながります。

環境調整への配慮

【事例③】

板書をする音に不快感を感じたり、友達の話し合う声で気が散ったりする子どもが、イヤーマフを着用したことで音の刺激が減り、集中して授業に参加していました。



活用のポイント

◎感覚過敏を和らげる

光、音、におい、肌触りなど、感覚過敏の要因となっている事物を特定し、刺激を減らすことが大切です。

環境を整えることで、安心して学習活動に参加できます。

マス目の工夫

【事例④】

子どもと相談して、マス目を大きくしたり、補助線を入れたり、枠線の色を変えたりしたことで、漢字をバランスよく書くことや筆算で正しく位取りすることができていました。



活用のポイント

◎書く位置を分かりやすくする

書くことが苦手な子どもにとって、「どこに、何を書くか」を分かりやすくすることが大切です。

書く位置を明確にすることで、正しく漢字を書いたり計算したりできます。

「個別の配慮」が必要となる子どもに対する指導・支援の評価は、実際の指導が一人一人の子どもの指導・支援のねらいに照らしてどのように行われ、その結果どのように子どもが変容したかを明らかにするものです。子どもの変容を基に、子どもの伸びやつまづきを分析し、指導・支援のねらいを見直しながら、「個別の配慮」を改善していくことが大切です。

「個別の配慮」は、特別支援学級における集団での学習活動でも、一人一人のねらいの達成を支える上で重要です。



1 授業づくりの成果

- ◇言葉を根拠として、個での思考と友達との対話を往還しながら、課題に対する考えを広げ深めることができる学習環境が整えられている。
- ◇子どもが課題解決に向け試行錯誤する過程で、「話すこと、聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の資質・能力を相互に関連付け、活用・発揮する言語活動が構想されている。
- ◇生成AIをエラーモデルの作成に活用するなど、身に付けさせたい資質・能力を踏まえた上でICTを効果的に活用することについて、授業者の意識が高まっている。

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

「主体的な学び」の視点から

- ① 語彙を質と量の両面から充実させるとともに、子どもが選択した語句の正誤・適否・美醜などについての感覚を養うことができるよう、言語活動における相手や目的、状況等を明確にする。

「対話的な学び」の視点から

- ② 読んだり体験したりして考えたことについて、動作化や劇化、図示等の方法で視覚化して伝え合う言語活動を、指導のねらいに応じて単元の学習過程に位置付ける。

「深い学び」の視点から

- ③ 言葉の意味や働き、使い方などに着目して、根拠を問い返したり、検討されていない側面から揺さぶったりすることにより、互いの考えを捉え直す機会を設ける。

3 期待される子どもの姿

- 言葉の意味や働き、使い方などに着目し、言葉の解釈や自らの表現方法について捉え直している。
- 動作化や図示によって明らかになった互いの解釈のずれを切り口として、叙述を根拠としながら、妥当な解釈について追究し、考えを伝え合っている。
- 複数の叙述を基に新たな解釈を生み出したり、文中の語句と他の語句とを照らして他者への伝わり方の違いを確かめたりする活動を通して、自分の考えや思いを深めている。

4 実践に基づく指導事例（令和7年度の取組から）

小学校

1年「すきなところを見つけよう～たぬきの糸車～」（本時7／10）

[知識及び技能(1)力、思考力、判断力、表現力等C(1)才]

[本時のねらい] 場面の様子に着目し、作品の好きなところと好きな理由を書いたり話したりして表現することができる。

主な学習活動

1 本時のめあてを確認する。

さくひんのすきなところと、すきなりゆうをつたえよう。

2 理由や根拠を添えて説明することのよさを、全体で共有する。

<子どもと教師とのやり取りから>
(エラーモデル「さくひんのすきなところは、たぬきがうれしそうにしているところです。」を提示して)

T：先生の説明は分かりやすいかな。

C1：好きな理由が書かれていないよ。

C2：理由がないと、どうして好きなのか分からない。

C3：どの言葉からうれしそうと思ったのか教えてほしいな。

本時の学習を見通す活動を設定することで、子どもの自力思考を活発にしている。

3 自分の考えを、言語化して整理する。

4 作品の好きなところと好きな理由を伝え合う。

5 本時の活動を振り返り、気付いたことやできたことを確かめる。

(例)

〇〇さんが、「糸のたばが山のようにあったのは、たぬきがながいあいだがんばったしるしだ」とはなして、なるほどとおもいました。

◎指導の手立て

◇学ぶ子どもの姿

◎子どもが自らの学習状況に応じて、学習の進め方を選択することができる環境を整える。 **ポイント①②**

◇自分が得意とする学び方により、学習形態や言語活動を選択し表現している。



【書いて整理コース】
ワークシートの質問に回答しながら、個々に考えを整理している。



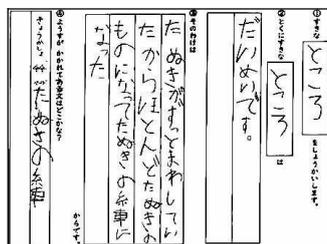
【話して整理コース】
文字起こし機能を活用し、ペアでインタビューし合っ
て考えを整理している。

解説

自分の得意な方法を選択して学習することができる環境を整えることにより、言語活動に向けた子どもの主体性を引き出しています。

◎叙述を根拠として、作品の好きなところと好きな理由を伝え合う場を設定する。 **ポイント②③**

◇考えの交流を通して、登場人物、題名、擬音語、挿絵等の多角的な視点から作品の魅力をつまみ直している。



糸を紡いだ時間の長さを想像し、題名が「たぬきの」糸車である理由を考察している。



自分とは異なる視点から好きなところを挙げている友達と交流し、考えを広げている。

解説

理由や根拠を明確にして伝え合う活動は、他者による表現の主意を正確に理解したり、自分の考えを適切に表現したりする資質・能力の育成につながります。

中学校

2年「分かってほしい、私の考え」（本時6／8）

[知識及び技能(1)ア、思考力、判断力、表現力等B(1)オ]
[本時のねらい] 説明文や論説文で学習したことを生かして意見文を評価し合い、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。

主な学習活動

1 本時の学習課題を確認する。

説明文や論説文の学習を生かして意見文を読み、よい点や改善点を見いだそう。

2 説明文や論説文で学習したことを振り返り、評価の視点を整理する。

3 意見文の下書きを読み合い、相互評価する。



書き手の表現の意図を確認したり、助言したりしている。

4 参考になった助言や、相互評価を通して気付いたことを全体で共有する。

5 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。

(例)

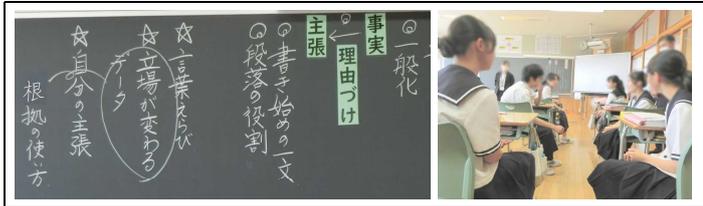
友達から意見をもらって、根拠の示し方について見直すことができたので、これからの参考にしたい。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎文章をよりよくするために、これまでの説明文や論説文の学習で得た視点を確認する場面を設定する。

ポイント①③

◇説明文や論説文における筆者の工夫を、自分の意見文の改善に生かそうとしている。



既習事項を基に、読者の興味を引いたり、説得力をもたせたりするための工夫について振り返っている。

解説

「読むこと」の学習を「書くこと」の学習に生かすなど、各領域の資質・能力を関連付け活用・発揮する言語活動を通して、言語能力が育まれていきます。

◎評価の視点を明確にした上で、互いの文章のよい点や改善点を伝え合う活動を取り入れる。ポイント②③

◇友達の見聞を基に、自分の意見文の改善点を見いだしている。

<子どもの発言より>

- C1: いざという時に役立つということは設置するべき理由になっていると思う。
- C2: 事実が入っていないと、根拠として弱いかもしれない。
- C3: 震災時に衛生用品が不足したことを書いたらどうかな。
- C1: 確かに、実際にあったことを付け加えると説得力が増すね。

<子どもの意見文の例>

(略) 外出中、靴ずれや急な鼻血などの小さなトラブルが起こっても、家に戻って対処することはできない。そんな時、ティッシュやばんそうこうなどが手に入れば、その場で対応できる。さらに、災害時には衛生用品の重要性が高まる。実際に、東日本大震災では、避難所で衛生用品が不足し、生活環境の悪化が問題になった。公共トイレに最低限の備えがあれば、避難初期の衛生確保や応急処置に役立つ。誰もが使う場所だからこそ、困ったときに支えとなる工夫が必要だ。だから私は、公共のトイレに衛生用品を設置すべきだと考える。

※下線部は次時に修正した箇所

意見文に説得力をもたせる上で、客観的な事実を根拠として示すことが重要であることに気付いている。

解説

相互評価を通して読み手の多様な感じ方に触れることで、自分が書いた文章について捉え直し、改善するための見通しをもつことができるようにしています。

社 会

1 授業づくりの成果

- ◇自分と社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりできるよう、地域にある素材や身近な事例を教材化し、単元を構成している。
- ◇課題を主体的に解決しようとする態度が育まれるよう、解決に必要な資料や議論する相手を自己選択・自己決定する機会を設けるなど、学習の個性化を意識した手立てを講じている。
- ◇社会に見られる課題などについて、自分の立場や着目する視点を明確にして追究する活動を取り入れることが、子どもの多面的・多角的な考察や深い理解につながっている。

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

「主体的な学び」の視点から

- ① 社会的事象について、見える事実を子どもと共に確認し、子どもに見えていない側面を示すなどして一人一人の課題意識を結び付け、全員が追究できる学習問題（課題）を設ける。

「対話的な学び」の視点から

- ② 学習過程の適切な場面において、他者と協働して考察したり社会への関わり方を構想（選択・判断）したりする機会を設ける。

「深い学び」の視点から

- ③ 事実に基づいて、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連を考え、学習問題（課題）に対する自分の考えを可視化するなど、表現する活動を重視する。

3 期待される子どもの姿

- 社会的事象から学習問題（課題）を見だし、解決の見通しをもって追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりしている。
- 考察、構想（選択・判断）したことについて、資料等を用いて論理的に説明したり、立場や根拠を明確にし議論したりするなどして、自他の意見や考え方を発展させている。
- 社会的な見方・考え方を働かせて、学習問題（課題）に対する自分の考えを、他者の意見や考え方を踏まえ自分の言葉で表現している。

4 実践に基づく指導事例（令和7年度の取組から）

小学校

5年「これからの食料生産～男鹿のこれまでとこれからを考える～」（本時6／7）

〔(2)ア(イ)の、イ(イ)〕

〔本時のねらい〕 地域の水産業を例に、食料を安定して確保し続けるために大切なことを、生産者や関係機関等の立場から多角的に考えることができる。

主な学習活動													
単元 時数	本時												
施設見学・学習問題・学習計画の共有(3) 単元の学習問題 「これからの食料生産をどのように進めたらよいのだろうか。」 食生活の変化とその影響(1) 食の安全・安心への取組(1) 食料を安定して確保する取組(1) まとめ(1)	1 男鹿市内の漁業就業者数の推移を基に、本時の学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 食料を安定して確保し続けるためには、どのようなことが大切なのだろうか。 </div> <div style="text-align: center;"> <p>図 男鹿市内の漁業就業者数(人)</p> <table border="1"> <tr><th>年</th><th>就業者数(人)</th></tr> <tr><td>H15</td><td>600</td></tr> <tr><td>H20</td><td>550</td></tr> <tr><td>H25</td><td>500</td></tr> <tr><td>H30</td><td>450</td></tr> <tr><td>R5</td><td>350</td></tr> </table> </div> <p>地域に見られる産業の現状が分かる資料を提示している。</p>	年	就業者数(人)	H15	600	H20	550	H25	500	H30	450	R5	350
	年	就業者数(人)											
	H15	600											
	H20	550											
	H25	500											
H30	450												
R5	350												
2 地域の養殖業者や秋田県水産振興センター職員へのインタビュー記録等から、食料を安定して確保するための取組について調べる。													
3 調べたことを全体場で発表する。													
4 海藻の移植や海岸の清掃に取り組む環境保全活動を動画で視聴する。													
5 学習問題に対する自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (例) 食料を安定して確保し続けるためには、生産者と関係機関が協力したり、自然かん境を守ったりすることが大切だ。自分にできることをやりたい。 </div>													

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎知的好奇心を高め、学習への動機付けが図られるよう、地域素材を教材化して提示する。 **ポイント①**

◇施設見学で関わった生産者や関係機関の立場から学習問題を追究している。



課題解決のために必要な資料を自己選択し追究している。

男鹿市の五里合地区では、車えびの養殖を行っています。この地区では、全国的にもめずらしい陸上での養殖を行っています。陸上での養殖は、海上での養殖よりも管理が楽です。また、育てているえびが病気になりにくいというのもよさの一つです。しかし、秋田県としての取組は、例がないので、試行錯誤をくり返しています。難しくてやめる漁師さんもいます。その中でねばり強く挑戦を続ける漁師さんもいます。成功につながるように、サポートを続けていきたいと思います。

取組(→)と願い(〜)で線種と色を変えて示している。

解説

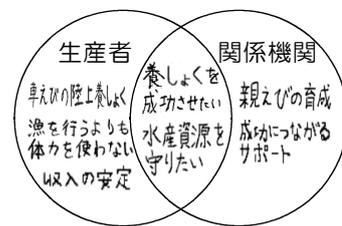
地域素材の教材化に当たり、地域にある施設を訪問したり、地域の人々と直接関わって学んだりする活動を位置付けた指導計画を作成することが大切です。

◎複数の立場から挙げた意見を統合したり、関連付けたりして多角的に考える場面を設ける。 **ポイント③**

◇それぞれの立場からの発表内容を基に、地域で行われている陸上養殖の取組についてまとめている。



漁獲量の減少や高齢化を背景に養殖に取り組んだことを、漁師の立場から発表している。



ベン図を用いて水産業に関わる人々の工夫を整理し、共通する願いに気付いている。

解説

思考ツールを活用するなどして、共通点や相違点、関連性に着目し分かったことを整理することにより、社会的事象の特色や意味を捉えやすくなります。

中学校

3年「現代の民主政治と社会」（本時1／7）〔C私たちと政治(2)ア(ア)(イ)、イ(ア)〕

[本時のねらい] 各ライフステージにおける政治参加の在り方から、自分の意思を政治に反映させる方法について考えることができる。

主な学習活動	
単元 時数	本時
単元の学習課題 「国民の意思を政治に反映させるために、どのような方法があるのだろうか。」	1 政治に関するアンケートの結果を基に、本時の学習課題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> どのような方法で政治に参加することができるのだろうか。 </div>
	2 ライフステージにおける政治参加の在り方について構想する。
	3 班や全体の場で意見交換をする。
	4 学習課題に対する自分の考えをまとめる。 (例) 選挙での投票や立候補だけでなく、SNSでの情報収集を通じて政治に参加できる。個人や世代により政治に対する願いが違うことが分かった。
	5 単元を貫く課題を設定する。
	6 本時の学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 10月17日 投票をすると言うのは簡単だけれど、大人になったら政治に参加しないこともあるかもしれない。でも、自分から進んで参加できるよう、世の中や政治のことを今のうちからよく理解しておきたい。 </div> 単元における学習の見通しをタブレット端末で投稿し共有している。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎自分の将来像が追究の手掛かりとなるよう、学級活動で作成したライフプランを活用する。 **ポイント②**

◇各自が選択した世代で想定される生活と関連付けて、政治参加の在り方を構想している。

年齢	20	30	40	50	60
家庭生活	自由に働くし親の介護				
学業	大学 旅行のため語学を学ぶ				
仕事 社会経験	外資系で働く			退職	



ライフプランに基づいて、追究する世代を選択している。

同じ世代を選択した子どもで、政治への願いを共有している。

解説

追究する立場を明確にし視点を絞ることは、社会的事象の一面を捉えやすくし、一人一人が課題の解決に向かうための有効な手立てとなります。

◎各世代で構想した政治参加の在り方について妥当性を検討できるよう、意図的に班を編制する。 **ポイント②③**

◇意見交換を通して、政治参加の在り方や政治への願いが多様であることに気付いている。



異なる世代を選択した子どもで、世代間の共通点や相違点に着目し意見交換をしている。

- <子どもの発言より>
- C 1 : 若い世代の投票率が低いから選挙に行く。
 - C 2 : 30代は議員になり、同じ子育て世代の願いを反映できるね。
 - C 3 : SNSでの情報収集や発信は、どの世代でもできるかな。
 - C 4 : 60代は難しいと思う。
 - C 1 : 若い世代から教えてもらいたいよ。
 - C 3 : 私たちが60代になったら、SNSでの政治参加は簡単だよ。

解説

複数の立場を踏まえて意見や考え方の妥当性を検討することは、合意形成を図ったり互いに納得する結論を生みだしたりすることにつながります。

算数、数学

1 授業づくりの成果

- ◇算数コーナーの掲示や前時の振り返りなどを活用して、既習事項と関連付けた問いを引き出し、学習課題を設定している。
- ◇子どもの多様な考えを引き出し、共通点や相違点など、視点を明らかにして比較・検討する活動が行われている。
- ◇本時の学習で学んだことを適用したり、発展的に考えたりする場を設定し、学習内容の定着を図ろうとしている。

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

「主体的な学び」の視点から

- ① 子どもが目的意識をもって取り組むことができる、日常の事象に関わる問題や数学の事象に関わる問題を提示する。

「対話的な学び」の視点から

- ② 数学的な表現を用いて筋道立てて説明し伝え合ったり、比較・検討しながらよりよい問題解決の実現につなげたりする活動を重視する。

「深い学び」の視点から

- ③ 学んだことを活用する問題を解いたり、統合的・発展的に考えたりする場面を設定する。

3 期待される子どもの姿

- 事象を数理的に捉え、数学の問題を見いだすとともに、既習事項を基に見通しをもって問題解決に取り組んでいる。
- 言葉や数、式、図などの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、見いだした性質について根拠を基に筋道立てて説明し伝え合ったりしている。
- 問題解決の過程を振り返って、働かせた数学的な見方・考え方を自覚し、今後の学習に生かそうとしたり、新たな問いを見いだしたりしている。

4 実践に基づく指導事例（令和7年度の取組から）

小学校

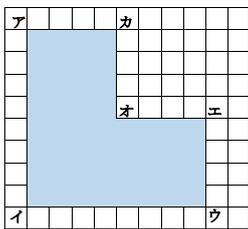
4年「面積」（本時11／12）[B図形(4)イ(ア)]

[本時のねらい] 正方形や長方形の面積の公式を活用して、正方形や長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考えることができる。

主な学習活動

- 1 本時の問題を把握し、学習課題を確認する。

次の図形の面積を求めよう。



図形の面積を計算で求めるには、どのようにしたらよいか。

- 2 解決方法の見通しをもつ。
- 3 自力解決を図る。
- 4 考えをグループで説明し合う。
- 5 解決方法を全体で共有する。
- 6 本時のまとめをする。

(例)

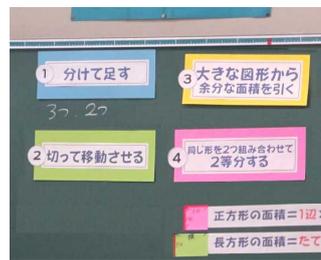
図形を分けたり足したりすることで、正方形や長方形を見つけ、面積の公式を活用して求めることができる。

- 7 評価問題を解き、本時の振り返りをする。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎解決方法の見通しをもつことができるよう、子どもが既習の図形に着目する場面を設定する。 **ポイント①**

◇長方形や正方形に着目し、図形の分解、変形など図形の構成を基にして解決方法を考えている。



自力解決の方法を選択できるよう、解決方法の手掛かりを掲示している。

選択した解決方法や、自力解決における思考の状況に合わせ、図形のシートを選んでいる。

解説

既習事項を基に問題を解決するための構想を立てることにより、主体的に数学的活動に取り組み、考えることの楽しさを実感できるようになります。

◎面積の求め方を比較・検討する場面において、解決方法の共通点を見付ける活動を取り入れる。 **ポイント②③**

◇複数の解決方法について比較・検討し、既習の図形を見だし、問題の図形を統合的に捉えている。



既習の図形を示し、図と式を関連付けて、解決方法を共有している。

解決方法において正方形と長方形の面積の公式が使われていることを説明している。

解説

問題解決の過程や結果を振り返り、既習事項との共通点を見いだすことは、図形の求積について統合的・発展的に考えることにつながります。

中学校

3年「関数 $y=ax^2$ 」(本時 11 / 15) [C関数 (1)イ(イ)]
 [本時のねらい] 具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を、関数 $y=ax^2$ とみなして、問題を解決することができる。

主な学習活動

1 ブレーキをかけて車が止まる動画を見る。

2 本時の問題を把握し、学習課題を設定する。

高速道路を走行中、道路上の落下物に気付き、急ブレーキをかけました。道路には25mのブレーキ痕が残っていました。この自動車の運転手は「時速70kmほどで走行していた」と言っています。実際の速さはどうだったのでしょうか。

走行時の速さを推測するにはどうしたらよいか。

3 走行時の速さとブレーキ痕の長さの関係を調べ、説明し合う。

4 自力解決を図る。

5 走行時の速さを推測する方法について、説明し合い、比較・検討する。(グループ→全体)

6 本時のまとめをする。

(例)

2つの数量の間の関係を、表やグラフから特徴を捉えて関数 $y=ax^2$ とみなし、表や式を利用して走行時の速さを推測するとよい。

7 評価問題を解き、本時の振り返りをする。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎子どもが必要感をもって問題解決に取り組めるよう、日常生活に関わる場面を提示する。 **ポイント①**

◇日常の事象から数学の問題を見だし、伴って変わる2つの数量の間の関係について関心を高めている。



<子どもと教師のやり取りより>
 T : 車は急には止まらないね。
 C1 : ブレーキを踏んでから少しずつスピードが落ちていくよ。
 C2 : 摩擦が働いているんだよね。
 C3 : スピードが速いとなかなか止まらない。
 C4 : 急ブレーキだとタイヤの痕が残るよね。
 T : それをブレーキ痕と言います。
 C5 : 速さとブレーキ痕の長さには関係がありそうだ。

動画を見て気付いたことや考えたことについて、子どもに問い掛け、問題解決に必要な2つの数量を引き出している。

解説

日常の事象を数理的に捉え、数学の問題を見出す活動を取り入れることで、子どもが目的意識をもって数学的活動に取り組むことが期待できます。

◎解決方法に応じて意図的なグループを構成し、互いの考えを説明し伝え合う活動を取り入れる。 **ポイント②**

◇表や式を用いた解決方法について比較・検討することにより、それぞれの解決方法のよさを実感している。



解決過程を示しながら、互いに説明し合っている。



見取った子どもの考えを基に、それぞれの解決方法のポイントやよさについて問い掛けている。

解説

数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動は、自分の考えを再認識したり、互いの解決方法のよさを実感したりすることにつながります。

理 科

1 授業づくりの成果

- ◇導入の場面では、体験活動や演示実験を取り入れ、子どもの興味・関心を高めるとともに、自然の事物・現象に対する気付きを引き出している。
- ◇個人で予想や仮説を発想する活動、個人やグループで観察、実験の計画を立案して検証する活動を取り入れるなどして、一人一人の課題意識や目的意識を高めている。
- ◇図や表等を用いて観察、実験の結果を共有する場面の設定や、差異点や共通点等の視点を組み入れた発問の吟味を大切にするなどして、根拠に基づく考察に結び付けようとしている。

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

「主体的な学び」の視点から

- ① 自然の事物・現象から問題を見だし、自らの予想や仮説を基に、観察、実験の計画を立案したり、観察、実験や考察で何に着目するかを確認したりするなどの学習過程を構想する。

「対話的な学び」の視点から

- ② 子ども同士の関わり合いを通して、予想や仮説、解決の方法、考察した内容の妥当性を科学的に検討する活動を重視する。

「深い学び」の視点から

- ③ 学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直したり、習得した知識及び技能を活用して考えたりする活動を取り入れる。

3 期待される子どもの姿

- 見いだした問題に対して、自ら発想した根拠のある予想や仮説を基に、見通しをもって観察、実験を行ったり、結果を分析し解釈したりするなどして、問題解決に取り組んでいる。
- あらかじめ個人で考え、その後、他者との意見交換や、根拠を基にした議論を行い、自分の考えを多面的、総合的に捉えて見つめ直し、より科学的な考えに変容させている。
- 得られた知識や技能を基に、新たな視点で自然の事物・現象を捉えて学習内容を深く理解したり、次の学習や日常生活において問題を発見し解決したりしている。

4 実践に基づく指導事例（令和7年度の取組から）

小学校

4年「物の性質を調べよう～とじこめた空気と水～」（本時6／8）

[第4学年A(1)空気と水の性質ア(イ)イ]

[本時のねらい] 閉じ込めた空気と水の場合を比較しながら調べる活動を通して、閉じ込めた空気と異なり、閉じ込めた水は押し縮められないことを理解することができる。

主な学習活動

- 1 前時までの学習を振り返り、学習課題（問題）と自らの予想を確認する。

とじこめた水の体積は、おされると、どのようになるのだろうか。

- 2 一人一人が実験を行い、結果を記録する。

- 3 実験の結果を各グループで共有し、考察する。

- 4 考察したことについて、グループや全体で共有し、話し合う。

- 5 話し合ったことを基に、本時のまとめをする。

(例)

とじこめた水の体積は、空気とちがって、おされても変わらない。

- 6 まとめで結論付けたことを確かめる。

- 7 本時の学習について振り返る。

<子どもの振り返りより>

水の入った注し器をおしたら、かたくて、「なるほどな。水の体積は変わらないんだな。」と思いました。

ぼくは、水の体積が少しは変わると思っていたけれど、変わらなくてびっくりしました。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎多種多様な実験器具を準備するなど、子どもの発想に基づく科学的な検証計画の立案を促す環境を整える。

ポイント①②

◇自らの発想に基づき、実験器具や実験の条件を決めて検証しようとしている。



容量の異なる注射器を準備し、子どもが選択できるようにしている。

<子どもと教師のやり取りより>

- C1：水の量は自分で決めていいですか。
 T：自分で決めても、グループで相談してもいいよ。それぞれによさがあるよ。
 C1：グループで決めよう。注射器は同じ大きさにしようよ。水の量は、私は40mLにする。
 C2：それじゃあ、ぼくは水の量を80mLにする。〇〇さんは120mLにしてみない？
 C3：うん。水の量を2倍、3倍にすると、何か決まりがあれば分かるね。

量的・関係的な視点から、関係付けや条件制御の考え方を働かせて、注射器に入れる水の量を考えている。

解説

自分の予想を基に検証方法を自己選択・自己決定して探究する学習過程を大切にすることは、主体的に問題解決する態度の育成に結び付きます。

◎押し縮めた時の体積や押し返す力の変化の違いを、異なる事物・現象において捉え直す活動を取り入れる。

ポイント②③

◇空気と水の性質を踏まえ、注射器に入っている物の体積の様子や、ボールの弾み方について考えている。



体積の変化の違いを確認できるよう、空気と水の両方が入った注射器を用いて演示している。



空気と水がそれぞれ入ったボールを用いて、押し返す力の違いを視覚化している。

解説

学習の成果を多様な自然の事物・現象に適用して考え表現する活動により、学習内容の理解が深まり、科学的な概念の形成が図られていきます。

中学校

2年「天気とその変化～雲のでき方と前線～」(本時5/6)

[第2分野(4)(イ)④前線の通過と天気の変化]

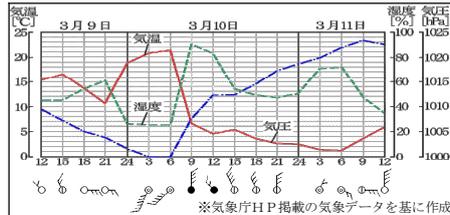
[本時のねらい] 観測記録のグラフから気象要素の変化を読み取り、通過した前線の種類や通過した時間帯を推定し、根拠を示して説明することができる。

主な学習活動

- 1 前時までの学習を振り返る。
- 2 学習課題(問題)を設定する。

気象要素のどのような特徴から、何という前線が、いつ通過したと判断できるのだろうか。

<提示した観測記録の資料>



- 3 観測記録のグラフを読み取り、考察する。
- 4 考察したことについてグループや全体で共有し、話し合う。
- 5 本時のまとめをする。

(例)

気温が急激に下がり、風向が南寄りから北寄りに変わり、雨が短時間に降ったという複数の気象要素の変化から、寒気が暖気を上空におし上げて地表をおおい、積乱雲ができたと考えられるので、寒冷前線が3月10日の6～9時頃に通過したと判断できる。

- 6 本時の学習について振り返り、次時の学習の見通しをもつ。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎本時で活用する既習の内容を取り上げ、課題の解決に向けて見通しをもつ活動を設定する。 **ポイント①**

◇地上からの視点と地上を俯瞰するような視点で考え、気象要素の特徴について確認している。



<子どもと教師のやり取りより>

- T : みんながいる地点は、気温がどうなっているかな。理由も教えてください。
 C1 : 僕たちは、寒気の中にいるので、気温が低く、寒いはずです。
 T : なるほど。では、天気はどうかかな。
 C2 : 曇りか雨です。寒気が暖気を上空におし上げて強い上昇気流が起こり、雲ができるからです。
 C3 : 私は、その雲は積乱雲だから、強い雨が降っていると思います。

前線の構造を表した簡易模型や電子黒板に示した天気図を用いて子どもとやり取りし、前線付近の気象現象に関する発言を引き出している。

解説

目に見えない現象を可視化して提示することにより、課題を解決する過程で着目すべき点を明確にし、科学的根拠に基づいた探究が行われるようにしています。

◎あらかじめ個人で考えた上で、意見交換したり、科学的根拠に基づいて議論したりする活動を重視する。

ポイント②③

◇自他の考察を比較して考えたことについて伝え合い、得られた気づきを基に自分の考察の質を高めている。



【考察】

①自分

通過前、風向は南寄り、通過後は北寄りに変化している。3月10日の6時～12時に、寒冷前線が通過したと推定される。

②グループの他の人

- 短時間に強い雨が降った
- 風向が南から北に変化した
- 急激に気温が下がる
- 寒冷前線と推定

③グループの話し合いの後の自分

6時～9時に気温が急激に下がり、風向が南寄りから北寄りに変わり、雨が短時間に強い雨が降ったので、寒冷前線と推定。

根拠となる観測記録の情報を示しながら、考えを伝え合っている。

グループの話し合いを踏まえ、友達のことを基に再考し、学習シートに整理している。

解説

自分の考察について他者の多様な考えを踏まえ再検討する活動を通して、より妥当な考えをつくりだす力が養われていきます。

生 活

1 授業づくりの成果

- ◇気付きの質を高めることを意識し、体験活動と表現活動とを相互に繰り返す単元を構想している。
- ◇子どもが感じ取った事柄について、教師が問い掛けたり共感したりするなどの働き掛けをして、発言やしぐさの背景を理解しようとしている。
- ◇身近な人々、社会及び自然との関わりの中で気付いたことについて、言葉で表現する活動を取り入れている。

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

「主体的な学び」の視点から

- ① 子どもの思いや願いを生かして、対象に繰り返し働き掛ける姿を引き出す学習過程を構想する。

「対話的な学び」の視点から

- ② 気付いたことや考えたこと、楽しかったことについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法で伝え合ったり、振り返ったりする活動を取り入れる。

「深い学び」の視点から

- ③ 「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」などの多様な学習活動を取り入れる。

3 期待される子どもの姿

- 身近な人々、社会及び自然に対する自分の思いや願いを基に、何度も関わりながら気付きを深め、活動の楽しさや満足感を感じ、次の活動への意欲をもっている。
- 活動を通して感じたことや考えたことを様々な表現方法で友達と伝え合い、友達との共通点や相違点を見いだしながら学びを振り返っている。
- 活動の過程における気付きを基に、次の活動への見通しをもち、遊びや生活をよりよくしようと試行錯誤を繰り返す中で、気付きの質を高めている。

4 実践に基づく指導事例（令和7年度の実践から）

小学校

1年「なかよくしようね！あきいっぱい！」（本時14／17）

[内容(5)季節の変化と生活、内容(6)自然や物を使った遊び]
 [本時のねらい] 年長児と接した体験や上級生のアドバイスを想起して、伝え方や遊び方について話し合い、おもちゃや遊び場を改善することができる。

主な学習活動

1 本時のめあてを確認する。

「あきいっぱい！なかよしランド」を、もっとたのしいものにへんしんさせよう。

2 改善したいことについてグループで話し合い、おもちゃや遊び場をよりよいものにする活動に取り組む。



改善したいことについて、各グループでホワイトボードに書いて確認している。

3 困っていることやうまくいったことを全体で振り返り、互いのよさを見付けたり、アドバイスをしたりする。

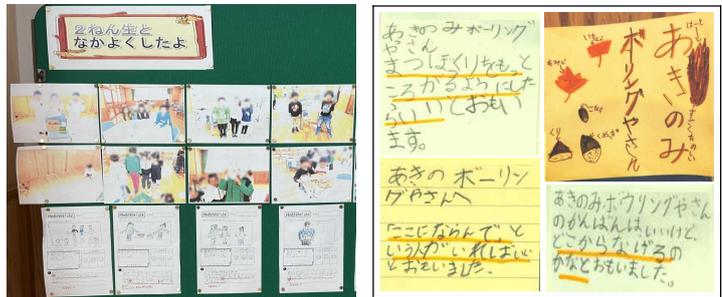
4 全体での交流で得た気づきを生かし、年長児がより楽しむことができるよう、おもちゃや遊び場を改善する。

5 本時の振り返りをする。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎活動の見通しをもつことができるよう、前時までの活動を想起する場を設定する。 **ポイント①②**

◇年長児に楽しんでもらうという目的意識をもち、2年生のアドバイスを生かして改善の計画を立てている。



年長児の代わりに2年生がお試し遊びに参加した際の、写真と学習シートを掲示している。

2年生からのアドバイスの付箋を提示し、改善点に着目できるようにしている。

解説

これまでの学習を振り返ったり、相手意識や目的意識を明確にしたりすることで、年長児との交流に向けた活動への意欲が高まっていきます。

◎条件を変えて試したり、再試行したり、確かめたりすることができる学習活動を取り入れる。 **ポイント①③**

◇材料の大きさや形を変えるなどして、おもちゃの動きを試している。



けん玉の皿の付け方や糸の長さを変えながら、遊びの難易度を調節している。



材料コーナーを設置し、様々な大きさや形の材料、道具を用意している。

解説

試行錯誤して挑戦することで、気づきの質が高まるとともに、事象を注意深く見つめたり予想を確かめたりするなどの理科の見方・考え方の基礎が養われます。

総合的な学習の時間

1 授業づくりの成果

- ◇自らの考えや課題が更新され、探究の過程が繰り返されるよう、単元を構想している。
- ◇直接的な体験を通して課題意識をもつことができるよう、体験活動を探究の過程に位置付けている。
- ◇興味・関心をもって探究的な学習に取り組むことができるよう、自己選択・自己決定の場を設定している。

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

「主体的な学び」の視点から

- ① 子ども自らが課題を解決する見通しをもったり、探究の過程で学習活動を振り返って考え直したりする機会を設定する。

「対話的な学び」の視点から

- ② 「考えるための技法」を活用して、収集した情報を多様な側面から読み取ったり、子ども同士で説明し合ったりする場を設定する。

「深い学び」の視点から

- ③ 各教科等で身に付けた知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を、子どもが繰り返し活用・発揮できるよう、探究の過程を構想する。

3 期待される子どもの姿

- 課題を解決する見通しをもって探究に取り組み、学習活動を振り返りながら、よりよい解決に向けて学習の進め方を調整したり、自己変容を自覚したりしている。
- 収集した情報を比較したり関連付けたりして分析し、自分の考えを友達と伝え合いながら、探究を深めている。
- 各教科等で身に付けた調べ方や考え方を探究課題に応じて活用し、試行錯誤を重ねながら、自分の考えをより質の高いものへと更新している。

4 実践に基づく指導事例（令和7年度の取組から）

小学校

6年「世界とつながろう 未来とつながろう」（2～13、32～37/40）

[思考力、判断力、表現力等]

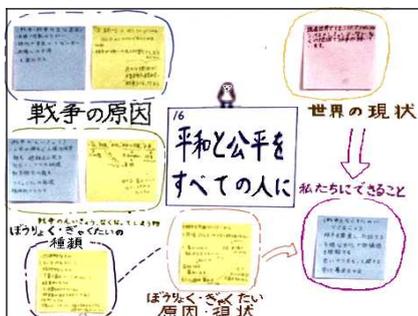
[単元の目標] SDGsの達成に向けた取組について探究する活動を通して、日本を含む世界各国で取組が行われていることに気づき、自ら設定した課題の解決に向けて考えをまとめ、適切に表現するとともに、生活に生かすことができるようにする。

主な学習活動
<p>1 5年生での活動を振り返り、学習計画を立てる。(1)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>SDGsの達成に向け、自分たちはどのようなことができるか。</p> </div>
<p>2 自分が選択したSDGsに関して、収集した情報を整理・分析する。(12)</p>
<p>3 調べたことについて表現方法を選択してまとめ、学級内で交流する。(2)</p>
<p>4 SDGsの達成に向け、自分ができる取組に関する新たな課題を設定し、情報収集する。(6)</p>
<p>5 班内で自分たちができる取組について話し合い、計画を立てて実践する。(10)</p>
<p>6 発表の準備を行い、他の学級との交流を通して、自分の発表を見直す。(6)</p>
<p>7 学習の成果や課題、今後取り組むことをまとめ、下級生に向けて発表する。(3)</p>

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎「考えるための技法」を活用して思考を可視化する活動を設定する。 **ポイント②③**

◇収集した情報を付箋紙に書き出し、友達が書いた付箋紙と関連付けながら類型化している。



まとめごとに見出しを付けたり、まとめ同士を矢印や線でつないで関係を明示したりしている。

解説

思考を可視化することは、個の思考を支えるとともに、協働的に情報を整理し、質の高い分析を行うための一助となります。

◎視点を明確に示して、他の学級と発表し合い、感想やアドバイスを伝え合う場を設定する。 **ポイント①②**

◇友達アドバイスを参考にして、発表内容や表現方法について見直している。



「聞き手の関心を高める内容」、「伝わりやすい表現」などの視点で助言をしている。

学んだことを楽しく発信するため、表現方法にすぐろくを選択している。

解説

他者の感想やアドバイスを基に、発信する情報を再構成する活動を設けることにより、情報活用の実践力が育まれていきます。

音 楽

1 授業づくりの成果

- ◇子どもが知覚したことと感受したこととの関わりについて考えを深められるよう、両者を整理して記入できる学習シート等を用いている。
- ◇子どもが知覚したことや感受したことを音や音楽で確認できるよう、タブレット端末に様々な音源や動画を準備している。
- ◇子どもが曲想や感受したことを表す際の参考となるよう、形容詞や形容動詞等の語彙カードを掲示し、活用している。

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

「主体的な学び」の視点から

- ① 音楽を形づくっている要素から指導内容に関わるものを焦点化して題材を構成し、子どもが知覚したことと感受したこととの関わりについて考える場を設定する。

「対話的な学び」の視点から

- ② 音楽活動と言語活動を行き来して気付きを広げたり深めたりしながら、表したい音楽表現や感じ取った音楽のイメージなどについて相互に伝え合う活動を取り入れる。

「深い学び」の視点から

- ③ 音楽表現を創意工夫することや音楽を味わって聴くことのよさについて、表現及び鑑賞の活動を通して実感することができる場を重視する。

3 期待される子どもの姿

- 音楽を形づくっている要素を根拠に、知覚したことと感受したこととの関わりを捉え、音楽表現に生かしている。
- 自分や他者の演奏から知覚したことや感受したことについて相互に伝え合ったり、楽譜から読み取ったことを音楽表現に生かしたりしている。
- 曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、思いや意図をもって表現するための技能を身に付けて演奏したり音楽をつくったりしている。

4 実践に基づく指導事例（令和7年度の取組から）

小学校

5年「和音のひびきの移り変わりを感じ取ろう」（本時5／6） [A表現(3)音楽づくりA]

[本時のねらい] 和音の響きを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。

主な学習活動

- 1 「静かにねむれ」を歌う。
- 2 本時のめあてを確認する。

和音の中の音を使って、自分のイメージに合ったせんりつをつくろう。

- 3 和音の響きを感じ取り、どのような曲想の旋律にしたいかを考える。

- 4 イメージした曲想に合うように旋律をつくる。

- 5 旋律を友達と聴き合い、意見を交換する。

- 6 旋律を改善する。

- 7 改善した内容について、全体で共有する。

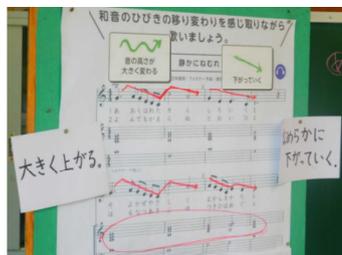
- 8 本時の振り返りをする。

<子どもの振り返りより>
和音の中の音を使って「やさしい」イメージのせんりつをつくり、速さや音色を変えてみました。少しゆっくりな速さの方がイメージに合うと感じました。

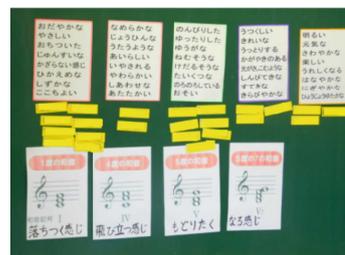
◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎前時までの学習内容や子どもが感じ取ったことを基に、本時の導入を行う。 **ポイント①**

◇和音の響きから感じ取ったイメージを、本時の教材に即して考えている。



前時までの学習内容を掲示し、本時の学習内容と関連付けている。



感情を表す語句の中から、子どもが自分のイメージに合うものを選択できるようにしている。

解説

他の分野で得た知識や技能を表現活動における根拠として生かすことができるよう、音楽を形づくっている要素を焦点化した題材構成にすることが大切です。

◎互いの旋律を聴いて気付いたことを伝え合い、改善を図る場を設定する。 **ポイント②③**

◇友達のイメージが旋律に合っているか、よりよくするにはどのように改善したらよいか考えている。



タブレット端末上の楽譜を見ながら、友達の旋律を聴いている。

<子どもの発言より>
C1: この旋律はどんなイメージ?
C2: 「表情豊かな」だよ。
C1: 使っている音が少ないから、イメージに近付けるには、他の音を足してみたらどうか。
C2: これはどう?
C3: さっきより「表情豊かな」というイメージに近付いたね。

解説

子どもが音や音楽及び言葉による交流で得た気づきを、音や音楽で繰り返し確かめることにより、思いや意図のある表現を膨らませることが期待できます。

中学校

1年「名曲PRに挑戦！『魔王』」（本時2／3）〔B鑑賞ア〕
〔本時のねらい〕強弱や調を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができる。

主な学習活動

【本時の活動】

1 前時の学習を振り返る。

2 本時の学習課題を確認する。

「魔王」という曲から緊迫感をおぼえるのはなぜだろう。

3 自分が聴きたい音源を選択して聴く。

4 登場人物ごとに、特徴や雰囲気を捉える。

5 登場人物別に、知覚したことや感受したことを共有する。

6 本時の学習を振り返る。

（例）

子の部分がだんだん強くなるし、音がだんだん高くなっている。ピアノの音も強くなっていることが、緊迫感を生み出す原因だと思う。さらに、父の部分の強弱はあまり変わらないことも原因の一つとなっている。

【次時の活動】

・題材のまとめとして、批評文をCDのポップ形式で作成する。



◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎子どもが登場人物や曲の部分を選択して聴くことができるよう、音源を準備する。 **ポイント①③**

◇緊迫感が生み出されている原因を、音楽を形づくっている要素と関連付けている。



登場人物別、場面別、動画付きなどの音源がタブレット端末に準備されている。



強弱や調の変化について知覚しようと、様々な音源を繰り返し聴いている。

解説

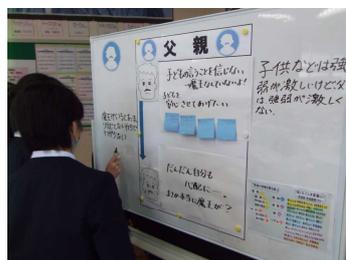
様々な音源を準備することにより、音楽を形づくっている要素を手掛かりに、知覚したことや感受したこととの根拠を子ども自身で探ることが可能となります。

◎タブレット端末等を用意し、音楽を介した話合いの場を設定する。 **ポイント②③**

◇自分が知覚したことや感受したことを、音源や楽譜を用いて友達に説明している。



タブレット端末を活用して、自分が注目した部分を相手に聴かせている。



知覚したことと感受したこととの関わりについて考えをまとめている。

解説

デジタルとアナログ両方のよさを生かし音楽活動の時間を確保することは、子どもが音楽のよさや美しさを味わって聴くことにつながります。

図画工作、美術

1 授業づくりの成果

- ◇例示した作品についての子どもの気付きや前時の振り返りなどを基に、*造形的な視点で整理しながら、学習のめあてを設定している。
- ◇多様な試みを支える材料や用具を準備するとともに、活動場所を検討したり、活動時間を確保したりしている。
- ◇*造形的な視点を基に、感じ取ったことや考えたことについて、伝え合う活動を取り入れている。

*造形的な視点：形や色など、造形を豊かに捉える多様な視点

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

「主体的な学び」の視点から

- ① 学習の見通しをもったり、*造形の要素に着目し学習活動を振り返ったりして、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

「対話的な学び」の視点から

- ② 造形的な視点を持ち、互いの活動や作品を見合いながら、自分の考えを広げたり深めたりする場面を必要に応じて設定する。

「深い学び」の視点から

- ③ 表現と鑑賞が相互に関連して働き合うよう、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて、子どもが感じ取ったり考えたりする場면을重視する。

*造形の要素：形、色、光、材質、空間など、作品を構成し鑑賞者が知覚する基本的な要素

3 期待される子どもの姿

- 自分の感覚や行為を通して造形的な視点を理解し、対象や事象について自分なりのイメージをもっている。
- 造形的なよさや美しさなどについて考え、自分にとって新しいものやことをつくりだしたり、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりしている。
- 造形的な視点に照らして、表現したことや感じ取ったことについて、自分としての意味や価値をつくりだしている。

体育、保健体育

1 授業づくりの成果

- ◇前時の振り返りや運動場面でのつまずきの様子などを取り上げ、課題の設定につなげている。
- ◇運動が苦手な子どもでも安心して運動に取り組むことができるよう、視覚的な理解を促す教具の活用や、安全に配慮した活動の場づくりに努めている。
- ◇健康・安全に関する内容について、身近な事例を活用し、子どもが実生活に即して考える場面を設定している。

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

【運動領域・体育分野】	【保健領域・保健分野】
<p>「主体的な学び」の視点から</p> <p>① 課題の例やその課題を解決するための活動などを、子どもの実態に応じて段階的に示す。</p>	<p>「主体的な学び」の視点から</p> <p>④ 健康・安全に関して、子どもの意識や実生活に即した課題を提示する。</p>
<p>「対話的な学び」の視点から</p> <p>② 見合いや教え合いのポイントを提示したり、チーム等で話し合う視点を明確にしたりする。</p>	<p>「対話的な学び」の視点から</p> <p>⑤ 健康課題の発見・解決のために、話し合ったり、伝え合ったりする場面を設定する。</p>
<p>「深い学び」の視点から</p> <p>③ 運動を楽しく行い、技能等を高めたり、運動の大切さを実感したりできる場を設定する。</p>	<p>「深い学び」の視点から</p> <p>⑥ 習得した知識と実際の生活とを比較したり関連付けたりする学習活動を取り入れる。</p>

3 期待される子どもの姿

【運動領域・体育分野】	【保健領域・保健分野】
○課題を自分のこととして捉え、自己の技能等に応じたためあてをもち学習に取り組んでいる。	○健康・安全の課題を自分のこととして捉え、実生活に生かそうとしている。
○課題解決に向け、思考し判断したことを言葉や動作等で他者に伝えている。	○健康情報や習得した知識・技能を活用して、多様な解決方法を考えている。
○運動の楽しさや大切さを実感し、主体的に運動に取り組んでいる。	○自他の健康の保持増進や回復に向けて、協力して活動している。

4 実践に基づく指導事例（令和7年度の取組から）

小学校

2年「器械・器具を使つての運動遊び（マットを使った運動遊び）」（本時5／6）

[B器械運動系イ]

[本時のねらい] 簡単な遊び方を工夫し、考えたことを友達に伝えることができる。

主な学習活動

1 準備運動、主運動につながる運動を行う。

2 本時のめあてを確認する。

うんどうあそびでくふうしたことを、友だちにつたえよう。

3 マットを使った運動遊びをする。

4 簡単な遊び方を工夫して、マットを使った運動遊びをする。

5 工夫した遊び方について、全体で共有する。

6 共有したことを基に、再び運動遊びをする。

7 本時の振り返りをする。

<子どもの振り返りより>
ブリッジをするときに足を頭の方に近づけたら、おなかが上がってきれいなブリッジになった。きれいなブリッジになる方を友だちにも教えることができてよかった。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎動きのこつを意識して運動遊びに取り組むことができるよう、掲示物や目印を準備する。 **ポイント①**

◇視覚的な手掛かりを活用し、自己の動きを調整しながら繰り返し練習している。



意識すべき体の部位に印を付け、動きのこつを随時、確認できるように掲示している。

肋木にカラーテープを貼ったり、マットに目のマークを置いたりして、場の設定をしている。

解説

動きのこつを示したり補助具を準備したりすることにより、子どもは運動遊びの行い方を知るとともに、基本的な動きができる楽しさに触れることができます。

◎子どもが試行錯誤して見つけた遊び方について、意図的に取り上げ、全体で共有する。 **ポイント②**

◇グループで工夫した点について、実演しながら友達に伝えている。



マットの配置を工夫している異なる方向に転がる場を作ったことを、全体で紹介している。

他のグループの動きを参考にし、友達がブリッジして作ったトンネルをくぐっている。

解説

子どもが自ら考えた遊び方を実演しながら全体へ伝えることにより、よい動きや工夫した遊び方が学級全体に広がっていきます。

中学校

1年「球技 ゴール型（バスケットボール）」（本時7／10） [E球技ア]

[本時のねらい] 攻撃場面においてボールを持っていないときの動きについて、課題や出来映えを伝えることができる。

主な学習活動

- ウォーミングアップを行う。
- 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。

攻撃のとき、ボールを持っていない人はどのように動けばよいだろう。

- 課題に対する予想とタスクゲーム（3対3）での動きについて、話し合う。

- タスクゲーム①を行う。

- チームでタスクゲーム①について振り返り、タスクゲーム②に向けて動きを確認する。

- タスクゲーム②を行う。

- 本時の振り返りをする。

<子どもの振り返りより>
ボールを持っていないときは、相手のいない場所や味方がパスを出しやすい場所に自分から動けばよいことを、チームで確認することができた。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎ボールを持っていないときの動きに着目できるよう、練習について話し合う場を設定する。 **ポイント①②**

◇得点するためには、空いている場所に走り込む動きが有効であることを確認している。



前時まで学習したことを基に、守備がいない場所への動きについて全体で共有している。

作戦ボードを用いて、ボールを持っていないときの動きについて考えを出し合っている。

解説

子どもの実態に応じて、課題の解決に向けた話し合い活動を取り入れ、よりよい動きについて思考し判断できるようにすることが大切です。

◎タスクゲーム①を振り返る際、動きについて確認できるよう、話し合いの視点を明確にする。 **ポイント②③**

◇ボールを持っていないときの自チームの動きを確認し、改善策について伝え合っている。



タスクゲーム①の動画を基に、空いている場所に動くことができているかを確認している。

タスクゲーム①で見られたゴール前へ走り込む動きを実演し、全体で共有している。

解説

話し合いの視点を明確にすることにより、状況に応じた動きについて理解の深化が図られるとともに、主体的にゲームへ参加する態度が養われていきます。

家庭、技術・家庭

1 授業づくりの成果

- ◇実践的・体験的な活動を通して、生活に必要な知識及び技能を習得する機会を設定している。
- ◇課題の解決策を考える場面では、図表等を用いて可視化して考えたり、説明したりする活動を取り入れている。
- ◇学んだことが家庭生活と関わっていることに気付く活動を取り入れている。

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

【小・中学校：家庭】	【中学校：技術】
<p>「主体的な学び」の視点から</p> <p>① 題材を通して、日常生活の中から問題を見だし、課題を設定する活動を取り入れる。</p> <p>「対話的な学び」の視点から</p> <p>② 子ども同士の協働や家族との会話を通して、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れる。</p> <p>「深い学び」の視点から</p> <p>③ 課題を自分の生活経験と関連付け、課題解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価・改善といった一連の活動を重視する。</p>	<p>「主体的な学び」の視点から</p> <p>④ 生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし、課題を設定する活動を取り入れる。</p> <p>「対話的な学び」の視点から</p> <p>⑤ 子ども同士が協働し、技術に関わる問題の解決方法を検討する活動を学習過程に位置付ける。</p> <p>「深い学び」の視点から</p> <p>⑥ 生活や社会における事象を技術との関わりで捉え、課題解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりする活動を重視する。</p>

3 期待される子どもの姿

【小・中学校：家庭】	【中学校：技術】
<p>○自分の発想や取組が、家庭生活を豊かにできていることに気付いている。</p> <p>○課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を考えている。</p> <p>○学習した内容を家庭や地域で実践したり、今後の生活で生かそうとしたりしている。</p>	<p>○技術と生活や社会、環境との関わりについて気付いている。</p> <p>○技術に関わる課題の解決策を試行錯誤しながら具体化している。</p> <p>○技術により課題を解決できた満足感や成就感を味わっている。</p>

外国語活動、外国語（英語）

1 授業づくりの成果

- ◇コミュニケーションを行う目的や場面、状況等（以下、目的等）を明確にし、自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を学習過程に位置付けている。
- ◇単元や本時における導入の場面において、デモンストレーションを取り入れることで、子どもがゴールの姿を具体的にイメージし、見通しをもって学習に取り組めるようにしている。
- ◇子どもが自己の変容や学習の成果を実感できるよう、ICTを活用して動画等で学びの記録を蓄積したり、振り返りの視点を与えたりしている。

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

「主体的な学び」の視点から

- ① 他教科等の学習や学校行事と関連付けるなどして、子どもの興味・関心に応じた題材を取り上げ、目的等を設定する。

「対話的な学び」の視点から

- ② 単元の中で、相手や目的等に応じて適切な表現を選択しながら自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を位置付ける。

「深い学び」の視点から

- ③ 言語面と内容面から活動を振り返る場面を取り入れ、目的等に応じた内容や言語材料を、子どもに再考させたり教師がフィードバックしたりする。

3 期待される子どもの姿

- 外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味・関心を持ち、目的等を意識して粘り強く取り組んでいる。
- 他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、コミュニケーションの楽しさや大切さを感じながら、外国語による表現の幅を広げたり自分の考えを深めたりしている。
- 言語の働きに関する理解や語彙・表現等の知識を深め、自分の表現が目的等に応じた内容や伝え方となっているのかを見直し、改善している。

4 実践に基づく指導事例（令和7年度の取組から）

小学校

6年「Unit 3 My Weekend」（本時6／8）〔思考力、判断力、表現力等(2)ア〕

[本時のねらい] 修学旅行の思い出についてALTによく知ってもらうために、学習した語句や表現を選択したり、付け加えたりして話すことができる。

主な学習活動

- 1 英語で挨拶、チャンツを行う。
- 2 単元のゴールと本時のめあてを確認する。

単元のゴール

ALTに修学旅行の思い出を伝えよう。

修学旅行の思い出をよく知ってもらうためには、どのような発表内容にしたらいかを考えて練習しよう。
- 3 教師のモデル発表を聞き、目的に沿った内容であるか考える。
- 4 個人で発表練習をする。
- 5 中間評価を行う。
- 6 発表内容を見直す。

- 7 本時の学習を振り返る。

<子どもの振り返りより>

1回目の練習では感想を話せなかったし、話す量も少なかったけれど、2回目では話す順番を変えたり、友達が使っていた言葉を付け足したりすることができました。前よりくわしく話せるようになりました。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎学校行事と関連付け、相手意識や目的意識を明確にした言語活動を設定する。 **ポイント①②**

◇修学旅行の思い出をよく知ってもらうために必要な内容や表現方法について見通しを立てている。



<教師と子どものやり取りより>

T : Hello. This is my trip. I enjoyed cherry blossoms. I ate *kaisendon*.

この内容でよく知ってもらえるかな？

C 1 : 行った場所を話したほうがいいよね。

C 2 : 食べた時の感想もあるといいと思う。

C 3 : 好きなことを加えるのはどう？

教師が意図的に情報量の少ないモデルを提示し、より詳しく伝えるために必要な内容を全員で考えることで、ゴールの姿を共有している。

解説

子どもの表現意欲を高める題材を扱い、目的等を明確にすることにより、適切な表現を選択して伝える力の向上が期待できます。

◎活動の途中で発表内容や表現方法について学び合い、表現を見直す活動を取り入れる。 **ポイント②③**

◇クラウド上に保存された発表を視聴し、話す内容や順番、使ってみたい表現等を考えている。



変容が見られた子どもの発表を取り上げ、表現のよさについて気づきを促している。

興味のある友達の発表を選んで聞き、自分の表現をよりよくするための参考にしている。

解説

自分の発表を見直し改善点を整理する時間を保障することで、子どもが発表内容や英語表現をよりよいものに再構築できるようにしています。

中学校

3年「Unit 2 How do you choose your clothes?」（本時5／12）

[思考力、判断力、表現力等(2)ウ]

[本時のねらい] オリジナルのエシカル商品のPRに向けて、表現の幅を広げるために考えを伝え合うことができる。

主な学習活動

1 ペアでSmall Talkを行う。

2 本時のめあてを確認する。

表現の幅を広げるために、考えを伝え合おう。

<生徒が考えたオリジナル商品例>

- ・植物繊維×筆
- ・果物の皮×スニーカー、グローブ
- ・シーグラス×ランタン
- ・卵の殻×プラモデル など

3 オリジナルのエシカル商品についてペアで伝え合う。

4 活動を振り返り、疑問や困ったことを解決する。

5 参考にできる表現を全体で共有する。

6 話す内容や英語表現を整理し、ペアを替えて再度伝え合う。

7 話した内容を書いて整理する。

<子どもが書いた英文より>

I want to make an ethical calligraphy brush. I have been learning calligraphy for seven years. I'm interested in it. I will use plant fibers because brushes usually use animal hair. If we use plant fibers, we can save animals.

Small Talkで使った表現や本時の学習内容を生かして、自分の考えや理由をまとめている。

8 本時の学習を振り返る。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎帯活動として、既習の語句や基本的な表現などを活用する言語活動を継続的に取り入れる。 **ポイント①②**

◇既習表現のリストを手掛かりにして、単元のゴールと関連のある話題についてペアでやり取りしている。



<子どものやり取りより>

- C 1: What are you into?
C 2: I'm into calligraphy.
C 1: That's cool. You're really good at it.
C 2: Thank you. I have been learning it for seven years.
C 1: Seven years! Wow.
C 2: It makes me happy.

相手の言葉を繰り返したり、話した内容に一言添えたりしながら会話を継続している。

解説

単元のゴールと身近な話題を関連付けて、繰り返し言語活動を設定することにより、言語材料の定着と伝え合う意欲の向上を図っています。

◎言語活動の目的を明確にした上で、自分の考えや理由等について伝え合う場を設定する。 **ポイント②③**

◇やり取りから新たな気づきを得たり、考えを伝えるための英語表現について試行錯誤したりしている。



やり取りで生まれた疑問や困ったことについて、タブレット端末や学習シートを使って調べたり、友達やALTに聞いたりするなど、取り組みやすい方法を選択し、解決を図っている。

解説

目的をもって多様な相手と考えなどを伝え合う場を設定することで、表現の幅を広げたり、自分の考えを深めたりできるようにしています。

道 徳

1 授業づくりの成果

- ◇導入の場面で、事前アンケートの結果や身近な話題を取り上げ、本時の主題に関わる問題意識をもたせたり、教材の内容に興味や関心をもたせたりしている。
- ◇複数の道徳的価値が対立する場面において、心情スケール等を活用し、考えを可視化して話し合う活動を取り入れることで、子どもの多様な感じ方や考え方を引き出している。
- ◇道徳的価値について、子どもが実感を伴って理解を深めたり自分との関わりで考えたりできるよう、疑似体験的な表現活動を取り入れている。

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

「主体的な学び」の視点から

- ① 子どもが主題に関わる問題意識をもったり、自らを振り返ったりしながら、ねらいとする道徳的価値に向き合い、自己を見つめることができる指導方法を取り入れる。

「対話的な学び」の視点から

- ② 子どもが友達の多様な考えに触れ、葛藤したり悩んだりしながら、新たに考えたことや判断したことを表現できる学習活動を設定する。

「深い学び」の視点から

- ③ 子どもが自分のよさや変容に気付いたり、これからの課題や目標を見付けたりする活動を通して、自らの生き方について考えを深める場を重視する。

3 期待される子どもの姿

- 道徳的価値の理解を基に自分の生活を振り返り、自分の成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりしている。
- 自分と違う立場や感じ方、考え方に触れ、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている。
- 道徳的価値について自分との関わりで捉え直し、自らの生き方についての考えを深めている。

4 実践に基づく指導事例（令和7年度の取組から）

小学校

2年「森のともだち」 [B-(10)友情、信頼]

[本時のねらい] 変わっていくこんきちの気持ちを考えることを通して、友達と仲良く助け合っているようにしようとする心情を育てる。

主な学習活動

- 1 友達と助け合うことについてのアンケート結果を共有し、本時の学習テーマを確認する。

友だちとたすけあうことについて考えよう。

- 2 教材を読み、内容をつかむ。



場面や登場人物について、場面絵などで整理し板書している。

- 3 場面ごとのこんきちの気持ちを考える。

- ① 森の動物たちに乱暴なことをしている場面
- ② オオカミから逃げて、胸をなでおろした場面
- ③ 大声で泣き出した場面

大声でなき出したとき、こんきちはどんな気持ちだったのだろう。

なぜ、こんきちの気持ちは、かわったのだろう。

- 4 学習テーマに立ち返り、自分との関わりで考える。

(例)

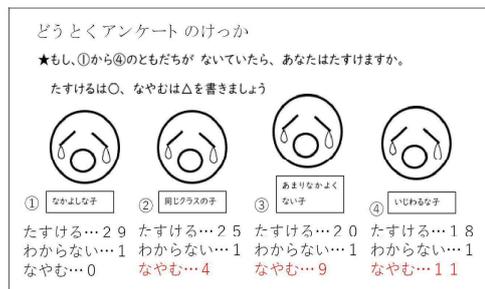
こまっていたときに、友だちがたすけてくれてうれしかったな。こんどはわたしがたすけてあげたいな。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

◎ねらいとする道徳的価値に対する子どもの考え方を共有し、本時の学習の方向をつかむ場面を設定する。

ポイント①

◇アンケート結果から、友達と助け合うことについて、考え方の違いがあることに気付いている。



アンケート結果を提示し、子どもが迷いや葛藤に着目できるようにしている。

解説

事前アンケートを活用し、道徳的行為の難しさを共有することで、子どもが問題意識をもって学習に取り組めるようにしています。

◎役割演技を行っている子どもの様子を見取り、言動の背景にある気持ちや考えについて問い返す。

ポイント②③

◇登場人物になりきって表現する活動を通して、友達と助け合うことについて考えを深めている。



こんきちの後悔の気持ちを表現した子どもに、なぜそう思ったのか問い返している。

解説

道徳的価値の理解を自分との関わりで深められるよう、表現活動の中で表出した子どもの気持ちや考えを生かし、ねらいに迫る発問をすることが大切です。

特別活動

1 授業づくりの成果

- ◇事前アンケートの実施により子どもの思いや実態を把握し、議題の提案理由を明確にするための支援をしたり、適切な資料を提示したりして問題意識を高めている。
- ◇思考ツールを活用して互いの考えを可視化し、共通点や相違点に着目しながら合意形成や意思決定に向けて話し合う場を設定している。
- ◇教室の学級活動コーナーに、話合いの内容や実践したこと、振り返りなどを掲示し、次の活動への意識付けを図っている。

2 学びの質を高めるための「授業改善のポイント」

「主体的な学び」の視点から

- ① 子どもの思いや願いを引き出し、必要感のある議題や題材を設定したり、話し合う内容や方法を明確に示したりする。

「対話的な学び」の視点から

- ② 議題について十分に話し合い、折り合いを付けて「合意形成」を図ったり、題材について多様な意見を参考に「意思決定」したりする機会を学習過程に位置付ける。

「深い学び」の視点から

- ③ 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に関わる一連の活動について、得られた気付きを生活に生かす視点で、振り返る機会を設定する。

3 期待される子どもの姿

- 学級や自己の生活、将来の生き方などについての課題を見だし、議題や題材を自分事として捉え、話し合いに臨んでいる。
- 話し合い活動を通して、自己の考え方を協働的に広げ深め、多様な意見を尊重して合意形成を図ったり、自分に合った具体的な目標や実践方法を意思決定したりしている。
- 一連の活動を振り返って成果や課題を確認し、自他の成長を実感したり、次の課題解決に取り組む意欲を高めたりしている。

4 実践に基づく指導事例（令和7年度の取組から）

小学校

4年「3年生と仲よくなりましょう会を開こう」〔学級活動（1）ア〕
 〔本時のねらい〕 自分たちの学級生活をより楽しく豊かなものにするため、3年生の気持ちに寄り添いながら、仲を深める活動を考えることができる。

主な学習活動

【本時の活動】

- 1 議題、提案理由、話し合いのめあて、話し合うことを確認する。

3年生と交流でき、楽しんでもらえる遊びを考えよう。

- 2 決まっていることを確認する。

- 3 話し合いをする。

- ① 3年生と遊ぶ内容
- ② 3年生と交流でき、楽しんでもらうための実践方法

- 4 話し合いを振り返る。

【事後の活動】

- ・役割分担と準備
- ・3年生と仲よくなりましょう会の実施
- ・一連の活動の振り返り

<子どもの振り返りより>

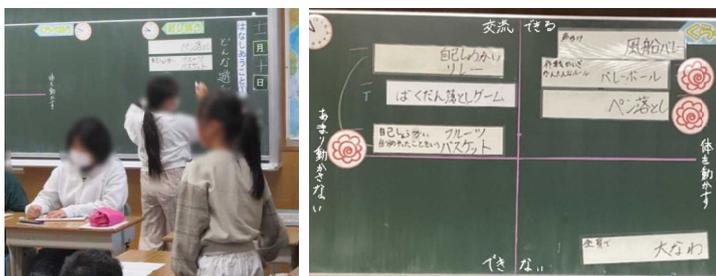
- ・ペン落としのときに交流ができ、3年生と話して仲よくなったと思う。3年生も楽しんでくれていたので、これからも話してみたい。
- ・次は、係の人も楽しむことができるように、役わりを見直すと思う。

◎指導の手立て ◇学ぶ子どもの姿

- ◎出された意見のよさが分かりやすくなるよう、話し合いの視点を基にした思考ツールを活用する。

ポイント①②

- ◇出された意見の違いを認め合い、互いの意見のよさを生かして合意形成を図っている。



比較する際に操作しやすく座標軸に設定されている話し合いの視点になるよう、意見を短冊に書いて示している。出された意見を分類、整理している。

解説

提案理由を踏まえ、思考を可視化・操作化・構造化することで、話し合いにおける視点が明確となり、よりよい合意形成につながります。

- ◎学級会で合意形成したことを基に協力して実践し、一連の活動を振り返る場を設定する。

ポイント③

- ◇3年生が楽しんでいる様子から、学級会で決めたことを協力して実践することのよさを実感している。



3年生と4年生がペアになって活動したことで、話し合いのめあてに沿った交流が生まれている。次の学習活動の参考とすることができるよう、写真や振り返りを掲示している。

解説

自発的、自治的な活動において、活動の過程や成果を振り返って達成感を味わうことで、次の課題解決に取り組もうとする意欲が高まります。

参考資料の作成に当たり、次の小・中学校から授業実践等を提供いただきました。
ご協力に、心より感謝申し上げます。

[男鹿市]

男鹿市立脇本第一小学校

男鹿市立船越小学校

男鹿市立男鹿南中学校

[潟上市]

潟上市立天王小学校

潟上市立飯田川小学校

潟上市立天王南中学校

[八郎潟町]

八郎潟町立八郎潟小学校

[由利本荘市]

由利本荘市立新山小学校

由利本荘市立子吉小学校

由利本荘市立矢島小学校

由利本荘市立大内小学校

由利本荘市立由利中学校

由利本荘市立東由利中学校

[にかほ市]

にかほ市立金浦小学校

にかほ市立仁賀保中学校

令和8年度 中央地区の教育

中央教育事務所

〒010-0951

秋田市山王四丁目1番2号

TEL 018-860-3241 (総務)

860-3243 (管理)

860-3244 (指導)

FAX 018-860-3861

E-mail: Chuuoukyouikujimusho@pref.akita.lg.jp

<https://www.pref.akita.lg.jp/>

(美の国あきたネット内)

中央教育事務所由利出張所

〒015-0885

由利本荘市水林366

TEL 0184-22-0155 (代表)

22-3239 (管理)

22-3673 (指導)

FAX 0184-27-1778

E-mail: Chuuoukyouikujimushoyuri@pref.akita.lg.jp